特集

データ放送・通信連携による参加型番組

兄部純一NHKデジタルサービス部長に聞く

## BSデジタル放送10年、データ放送も10年

# データ放送の新展開

**デジタル放送の帯域内で映像や音声のほか、番組に関する情報などさまざまな情報を提供するデータ放送サービスは、地デジ化の目玉のひとつである。特にNHKのデータ放送は充実しており、総合テレビのみならず、教育テレビでは「インターネット＆ケータイあんしんナビ」といったメディアリテラシー教育に関する情報も提供している。NHKのデータ放送を統括している編成局デジタルサービス部の兄部（こうべ）純一部長に、データ放送の現状と2011年7月以降の新展開について聞いた。**　（聞き手：吉井 勇・本誌編集長、構成：古山智恵・本誌編集部、写真：石曾根理倫）

### デジタルサービス部の役割

―― 兄部部長が率いるデジタルサービス部の役割について教えてください。

**兄部**　一言で言うと、デジタルサービス部は、編成局の中でBS・地上デジタルデータ放送、データオンライン、モバイル、それぞれのサイトの開発を担当しています。データ放送は、放送領域だけではなく、デジタルテレビのインターネット領域、これをわれわれはデジタル放送連携サービスといっていますが、双方向サービスを含めて開発から日々の運用までを行っています。

NHKの場合、PCサイトが約400サイト、モバイルが約250サイトあって、主にそれらのトップページの編集と、中心的なページのサポートをしています。例えば、大河ドラマと朝の連続テレビ小説のサイトは広報局が作成していますが、動画やテキスト等をアップロードするシステムなど、共通化する部分をデジタルサービス部で作っています。

―― NHKサイトのプラットフォーム的役割ということでしょうか。

**兄部**　そうです。プラットフォームの構築・運用を担当していると言っていいかと思います。

### 双方向サービスに奥行きを持たせる

―― サイマル放送時代から、現在のデータ放送の取り組みについて教えてください。

**兄部**　データ放送がスタートした2000年のBSデジタル放送から数えて、丸10年になります。私がデータ放送に関わったのは2003年の地上デジタル放送からですが、当時からどういう情報をどういう形で提供するのがよいのか、さまざまな形で試行錯誤を今日まで続けてきました。営々と続けてきたデータ放送の役割というものが、この2～3年でようやくクローズアップされるようになってきたという感じです。

今年7月24日からは、アナログ変換や簡易チューナーなど一部の例外を除いて、データ放送が標準装備になりま